中小企業診断士 過去間ゼミ#2(平成24年度)

平成 26 年 8 月 25 日

過去問の学習方法

1. 過去問は最高のバイブルです。専門校の答練にも良問はありますが、やはり本試験に 叶うものではありません。特に事例IVの経営分析は、各企業の数値を徹底的に洗い出 す練習をすれば、必ず本試験での対応力を確保できます。

DVDでは話していませんが、平成24年度の論点と同様のものは、平成17年度で予想財務諸表の問題が、16年度で企業価値の問題が出題されています。Amazonやオークション等を利用してできるだけ過去問を解く事をおすすめします。

事例IVの本番での対処方法

- 1. 最初の20分は、とにかく我慢。どこに配点が来るか?そのうち自分は、どこで点を取るか(できるだけ単独問題)をしっかり設計する。
- 2.「いける」と思って途中まで実施した問題であっても、途中で無理と感じたら「すっぱり、あきらめる事」も大事
- 3. 記述問題は、とにかく「解答要求」と「与件」を照らし合わせれば、「何か」書く事は 可能。過去の受験者から「あの答案でAとがビックリ」という声はよく聞きます。決 してあきらめず、最後の1分まで力を振り絞ってください

平成24年の対処法(大問の配点はそのままで、設問の傾斜が極端な可能性あり)

①20 分間で設計

		傾斜配点	0	0	×
第1問	設問1 a	8	8		
	設問1 b	8	8		
	設問2 3つ	15	10	5	
	設問3 NPV	2			2
	設問3 計算過程	4			4
	設問3 記述	3		3	
第2問	設問 1	20	20		
	損益分岐点比率				
	計算過程				
	設問 2	10		10	
	固定費の削減額				
	計算過程				
第3問	設問 1 FCF	5			5
	設問 1 WACC	3	3		
	設問1 企業価値	2		1	1
	設問 2	20	8		12
合計		100	57	19	24

[◎]講座では57点といってますが再計算しました

X

[○]講座では15点といってますが再計算しました

<解説>

旧館 木造 8部屋 30名 新館 17 部屋 90 名

オーナ夫妻+正社員 19 名+パート 13 名

部屋担当・地元食材

新館のみ or 旧館改修

 $18,000 \rightarrow 17,000 \rightarrow 16,500$

@20,000	@23,000	
△180,000 50,000 130,000(B/K) 4%	17,000 18,000- 定額法 10 年 設備・修繕+2 水道・広告+1	•

予想 P/L

施設改修 NPV 18,000 (2年目以降)

収益性3つ

新館のみ(15,000 名) 人件費・減価以外-30%

BEP (1,000 円未満四捨) BEP 比率 90%の固定費

企業価値FCF+WACC

事業承継

では、確実に取りたい論点から説明します

第1問

予想 P/L とにかく慎重に計算しないと他の問題に影響する (20 分かけても良い)

	当期	初年度	2年度	新館のみ
売上	330,000	391,000	414,000	300,000
へ・食材 5.6	92,400	95,200	100,800	84,000
へ・販売手数	34,815			
ヘ・リネン	9,075			
変動計 2,66	43,890	45,220	47,880	39,900
こ・水道+10%	40,000	44,000	IJ	28,000
こ・事務	6,000	6,000	IJ	4,200
こ・広告+10%	6,500	7,150	IJ	4,550
こ・設備+20%	10,000	12,000	IJ	7,000
こ・人件費	119,300	119,300	IJ	119,300
こ・減価	25,400	43,400	IJ	25,400
+18,000				
固定計		231,850	231,850	188,450
客単価	20,000	23,000		20,000
客数	16,500	17,000	18,000	15,000

支払利息 +5,200 営業外 24,360

収益性(売上高利益率2つと固定資産回転率が候補)

第2問

(設問1)

84,000+39,900=123,900 変動費率 0.413

X - 0.413X - 188,450 = 0

 $X = 321,039.182 \rightarrow 321.039$

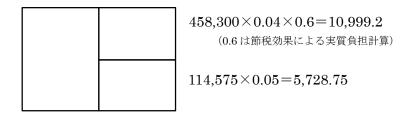
321,039 / 300,000 = 107.013

第3問

(設問1)

WACCの値(論点整理ゼミ3より)

難しく考える人もいます(公式で覚えようとする)が、B/Sをイメージすれば簡単です



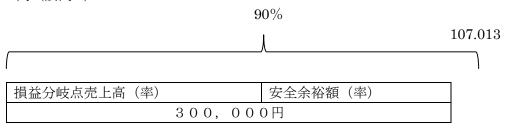
合計 16,727.95/572,875=0.0292

企業価値の計算式(できれば、と書いてますが、確実に取りたいに近い部分です)

 $\frac{F C F}{WACC}$

続いて、できれば取りたい問題を確認しましょう

第2問(設問2)



 $300,000 \times 0.9 = 270,000$ を BEP にしたい

変動費率 0.413

売上高一変動費一固定費=0の売上高が損益分岐点売上高

270,000 - 111,510 - X = 0X = 158,490

188,450 - 158,490 = 29,960

最後に、余力あれば解く問題の解説をします。

ただ、このあたりを試験対策として突き詰める必要はないと思います。その時間があれば、 「広くやや深く」という観点での学習をおすすめします。

第1問

論点整理ゼミより

改修投資の正味現在価値なので、増分だけで計算する必要がある。また、割引率は WACC が使われる事が多く、WACC の計算では負債の節税効果が加味されているので、CF計算時には支払利息の節税効果は加味しない(W効果になってしまうから)という考え方を採用します。結果的には営業利益ベースでの増分を考えれば良い

とりあえず当期と2年目のみの営業CFを比べてみましょう

	区分	当期	初年度	増分	2年目	増分
売上高	CIF	330,000	391,000	61,000	414,000	84,000
売上原価	COF	92,400	95,200	2,800	100,800	8,400
販売費・一般管	COF	225,690	233,670	7,980	236,330	10,640
理費(除:減価)						
減価償却費		25,400	43,400	18,000	43,400	18,000
税引前営業損益		\triangle 13,490	18,730	32,220	33,470	46,960
法人税	COF	△5,396	7,492	12,888	13,388	18,784
税引後営業損益		△8,094	11,238	19,332	20,082	28,176

<営業CF>

当 期 330,000-92,400-225,690- (-5,396) =17,306・・・・①

初年度 391,000-95,200-233,670-7,492=54,638

2年目 414,000-100,800-236,330-13,388=63,482

よって増分CFは

初年度 54,638-17,306=37,332

2年目63,482-17,306=46,176となる

論点整理ゼミより

営業損失発生時の営業CFの計算における税金の効果に関しては、専門校などによって考え方は違うようです。ファイナンス理論では、基本的に「税引後営業利益+減価償却費」が基本になっているので、損失の場合も「税引後営業損失+減価償却費」で処理を行うのが一般的なようです

NPVの計算 (2通り)

(パターン1)

2年目以降の1年度末時点の価値=46,176×6.802=314,089.152

これに 1 年度末の増分を加える =314,089.152+37,332=351,421.152

さらに1年割引く =351,421.152×0.943=331,390.1463

NPV(投資額を差引く) =151,390.1463・・・

(パターン2)

純額を計算する

2年目増分 46,176 を 10 年分割引く $=46,176 \times 7.360 = 339,855.36$ 1年目過大計算分を計算する =46,176 - 37,332 = 8,844

=339,855,36-8,339.892=331,515.468

過大計算分を 1 年分割引く $=8,844 \times 0.943 = 8,339.892$

NPV(投資額を差引く) =151,515.468

第3問

(設問1) FCFの計算 第2問のP/Lの値を利用する

ここは公式を使わないと時間がかかる 給料調整後**税引前**営業損益= $\triangle13,490+16,000=2,510$ **税引後**営業損益+減価償却費= $2,510\times0.6+25,400=26,906$

この公式は、前ページ①の式で検証は可能